

稲が開花—去年より4～5日遅く

稲が穂を出し、花を開き始めました。気づいたのは、8月6日です。5枚の田んぼのうち、さくら、つくし、れんげ、すみれの4枚で、ちらほら開花しているのを、翌7日の作業のとき、確認しました。去年は8月5日に、同じ田んぼで一斉に開花していましたから、4～5日遅いことになります。



さくら田んぼで

この田んぼ4枚には、うるち米の早生種キヌヒカリを作付けしてあります。4月15日に種籾を蒔いてから、低温が続いて苗の生長が遅いので、田植えを例年より遅く、6月の第2週にしました。7月初めに例年より早く、梅雨が明けたあと、猛暑が続き、生長の遅れを回復しましたが、まだ100%は取り戻していません。

関東地方の農家には、「土用のひと照り百万石」という言い伝えがあります。いちばん暑い時期に晴天だと、豊作が期待できる、とい

う意味です。8月中旬に晴天が続き、生長の遅れをさらに取り戻すことを期待しましょう。

残りの1枚、ふじ田んぼには、もち米の中生種マンゲツモチを植えてあります。こちらの開花は数日先になるでしょう。おコメ作りは21世紀のいまも、天候次第です。うるち米ももち米も、台風の被害などに遭わず、豊かに稔ってくれることを祈っています。



すみれ田んぼで